

日本共産党議員団視察報告書

1 視察先・目的

長野県茅野市

福祉21ビーナスプランについて

諏訪中央病院（長野県茅野市）

病院の経営状況等について

2 期日

平成28年1月21日

視察報告書

日 時	平成28年1月21日
視 察 先	長野県茅野市
視 察 項 目	福祉21ビーナスプランについて
視 察 者	日本共産党議員団（久野たき、中平 猛）
視 察 内 容	<p>1990年に行われた社会福祉関係八法の改正により、それ以降の社会福祉は市町村を基盤にして、在宅サービスを軸にした地域福祉の計画的な推進の時代となり、茅野市では基幹病院である諏訪中央病院と開業医院が中心となって地域ケア・在宅支援を進めてきた。また、予防活動、健康づくり活動としての保健活動も保健師や保健補導員会などを中心に活発に行い、社会福祉の関係者もそういった活動に加わることによって、徐々に関係者の連帯や協力体制ができあがってきた。このような活動を下地として福祉21ビーナスプランは策定された。このプランは次の4つの基本理念によって構成されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 一人ひとりが主役となり、「共に生きる」ことのできるまち (2) 生涯にわたって健やかに、安心して暮らせるまち (3) ふれあい、学びあい、支えあいのあふれるまち (4) すべての人にとって豊かで快適に生活することができるまち <p>この基本理念を具体的に実行し、地域の中で誰もがその人らしく暮らせる茅野市にするための支援システムをつくることが計画の目的で、第1次プランでは、市内に4つの保健福祉サービスセンターを置き、保健・医療・福祉の連帯システムをつくり、第2次プランでは次のステップとして「自助・共助」に当たる「地域づくり」に取り組んでいる。</p>
所 感	<p>市民・民間主導、行政支援による公民協働の「パートナーシップのまちづくり」が茅野市の基本的な考え方で、地域に職員を多数配置することで費用はかなりかかっているが、費用よりも必要性を大事に考え、とにかく市民の声に応え、サービス重視で取り組んでいるとの職員の話に驚いた。職員が地域に入ることによって直接話を聞き、出会いもあり、普通の職員では学べないことを学べることはいい経験になったと職員の本音を聞き、市民協働を進める知多市でもこのような取り組みをコストよりも市民の声、必要性、サービス重視に重点を置いて検討していく必要性を感じた。</p>

日 時	平成28年1月21日
視 察 先	諏訪中央病院（長野県茅野市）
視 察 項 目	病院の経営状況等について
視 察 者	日本共産党議員団（久野たき、中平 猛）
視 察 内 容	<p>諏訪中央病院は、昭和25年開院。本市と同様に茅野市、原村、諏訪市による一部事務組合となっている。ベッド数360床、医師96名をあわせて686名の職員で運営している。</p> <p>病院の沿革から目標とする医療のあり方、経営状況、課題などについて視察した。</p> <p>目標とする医療は、心休まる環境としての病院であり、よりよい療養・看護ができる病棟。良質かつ高度な医療がいつでも受けられる施設設備と、家庭や地域と直結される医療環境づくりである。</p> <p>充実した救急医療体制と高度医療で365日対応 構成市町との医療・介護・福祉の連携をとり、予防からリハビリまで、一貫した医療を担うとしている。そのための情報の共有・収集・提供などのシステムの工夫がされている。</p> <p>しかし、経営状況は厳しい状況になっている。職員の削減はできないので、この状況をどう乗り切るかが課題とのことである。</p>
所 感	<p>最も印象的だったのは、診療報酬の改定にとられることなくどういう医療を行っていくのかという核ともいべきものを持つことが大事であるという事務部長の言葉である。</p> <p>基本理念に掲げられている、やさしく、あたたかい、たしかな医療を目指す。さらに充実した救急医療、安全な医療、患者さんの権利を尊重した、思いやりのある医療など、地域住民の目線に立った医療を目指しているというのが患者にとって何よりであると感じた。</p> <p>また、臨床医の指定病院となっており、医師確保の点でも成果があがっている。</p>